Luncheon Linguistics, 6/19/2024

2024（令和6）年6月19日

「学会報告 第39回 International Finno-Ugric Students' Conference (IFUSCO 2024)」

発表者：長谷川朝香（東京外国語大学大学院博士前期課程）

本発表では第39回 International Finno-Ugric Students' Conference（以下、IFUSCO 2024）について、開催概要および2つの学会発表について共有した。

IFUSCO 2024 はハンガリーのEötvös Loránd Universityにて2024年5月26日～31日の5日間開催されたものであり、ウラルの言語や民族に関する諸分野を対象としたものである。

報告ではIFUSCOの概要、参加費、発表者数、スケジュールを紹介したのち、コミ・ペルミャク語に関連する以下の2つの発表を紹介した。

1. Gulyás, Nikolett F.: *Komi-Permyak in the light of new typological data* (Guest lecture)
2. Tóbiás, E. N.: *A birtokos személyjel „mászása” a komi-permjákban* (Presentation)

前者はコミ・ペルミャク語のデータを含む類型論的データベースの紹介と、データベース化するうえで問題となる文法現象として、DOMを挙げたものである。後者はコミ・ペルミャク語やその他フィン・ウゴル諸語に見られるPossessive suffix climbing (所有接辞の上昇, PSC) について、直接目的語の有生性と譲渡可能性に着目して分析したものである。

本学会への参加および発表は、科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究代表者 風間伸次郎 「アルタイ諸言語の文法の総合的研究」(課題番号23K20091)からの助成を受けたものである。

なお本成果は発表者自らの見解等に基づくものであり、所属研究機関、資金配分機関、および国の見解等を反映するものではない。